



上記具体的な施策については例示であり、関係者協議により変更がありうる。

# ■ 嶺北地域公共交通計画の現況と課題、方向性の整理（全体概要）

## 主な現況整理の要点

II-⑬ 北陸新幹線の金沢～敦賀間開業に伴い、東京～福井間2時間53分（34分短縮）。経済波及効果は約300億円を超え、交流人口が78.5万人増加すると予測されるなど、地域に大きなインパクトをもたらす

II-⑫ 新幹線駅から各観光地に向かう二次交通は、鉄道及び路線バス、直通・特急バスなどが整備・運行されている  
多くが福井駅から放射状に伸びており、観光地間を結ぶ周遊・回遊性の点で、なお強化の余地が残る

II-② コロナにより鉄道及びバスは利用者数が大きく減少し、それに伴い厳しい経営状況が継続

II-⑦ コロナによりタクシー利用者は減少し、厳しい経営状況が継続しており、少人数の多様な移動を支えるタクシーの将来的なリソース不足が懸念

II-⑩ コロナにより観光入り込み客数は減少したものの若干回復しており、北陸新幹線開業に伴い、さらなる増加が期待

## 主な課題の整理

### 課題4

新幹線の開業効果を全県に波及させるため、様々な交通を有機的に結合させることが必要

観光地において、回遊性の向上により各地での滞在及び街歩きをやすくする方策が必要

公共交通で移動が可能であることを最大限アピールし、行きやすさ、分かりやすさを向上させることで利用を増やす取組が必要

コロナ禍で人流が減少している中、公共交通機関の維持・活性化に向け、新幹線客の受け入れ体制を強化することが必要

複数モード（鉄道・バス・タクシー）を乗り継ぎ、円滑に各地へ訪問できる輸送体系の確立が必要

福井での魅力を観光周遊を通じて体感してもらうため、複数の観光地を円滑かつお得に回ってもらうためのコンテンツが必要

### 課題5

公共交通自体の魅力を向上させ、「乗ってみたくなる」ような価値を高めることが必要

移動中も楽しめるアクティビティや車窓からの魅力ある景色等の活用により公共交通に対する興味関心を高め、利用者増を図ることが必要

賑わいを生み出すイベントやストーリーのある観光コンテンツなどの魅力づくり、県内各地への周遊を促す仕組みが必要

## 施策の方向性

2

## 新幹線駅からの利便性の高い二次交通の整備

### 施策6 北陸新幹線の各駅からの二次交通の充実

- ・新幹線発着に合わせた二次交通ダイヤ設定
- ・主要拠点・観光地を結ぶバス・定額タクシー
- ・鉄道・バスを乗り継ぐ周遊きっぷの企画
- ・新幹線駅から観光地に向かう移動手段の分かりやすさ向上
- ・公共交通における交通系ICカード導入（再掲）等

### 施策7 複数の交通モードの一体的な乗継サービスの提供

- ・観光型Ma a S、魅力的な商品企画
- ・公共交通による観光モデルレートの設定
- ・公共交通ポータルサイトによる情報発信等

3

## 公共交通での移動を 楽しめる仕掛けづくり

### 施策8 エンタメ交通の推進

- ・地域の観光資源と連動したイベント列車等の運行
- ・観光列車、ラッピング車両等の導入
- ・位置情報と連動した観光情報の提供、デジタルスタンプラリーの実施等

II-③ 住民や利用者からは運行本数の増便や乗り換えのダイヤ見直し、キャッシュレス化等に対する要望が強い

II-⑭ 独自性のある車両、ラッピング車両や車内放送のエンタメ化など鉄道・バスに乗ることを楽しめる車両が運行及び計画されている  
北陸新幹線開業後は駅を起点とした公共交通の移動の増加が想定され、駅と主要観光地を結び、楽しみながら移動できる魅力や利便性ある公共交通の充実が望まれる